

Ann Lucia の航海

近藤シルヴィア・建一

2010 年 6 月 4 日 葉山マリーナ 出港

2010 年 7 月 31 日 カナダ・ヴィクトリア 着

2010 年 10 月 10 日 サンフランシスコ 着

2010 年 11 月 12 日 ロサンゼルス 着

2010 年 12 月 2 日 サンディエゴ 着

以下「船旅日記」です。

サンディエゴに着いて 2 ヶ月が過ぎました。猫も私達もとても元気になっています。

この 2 ヶ月は思う存分町とその周辺を満喫しました。この町は、居ればいるほど好きになります。

サンディエゴは何処へ行っても清潔で安全です。夜一人でバスに乗ったり、歩いても全く不安を感じません。気候が良く、昼間は照りつける太陽で暑いくらいですが、夕方から涼しく(時に寒く) になります。

町のあちこちに芸術家達の思い思いの作品が展示してあって優雅な気分になります。

ビーチでは常に大勢の若者達でにぎわっており、サンディエゴベイでは毎日たくさんのヨットがセイリングを楽しんでいます。

サンディエゴに着いて早々、ボースン（主人）はニューヨーク滞在中の娘夫婦の所に二人目の子供が生まれたので飛行機で顔を見に行きました。その間、私は長期滞在可能なマリーナ探し。まずは 10 箇所のマリーナに電話して、反応が良かったマリーナを自転車で廻る。結局が一番親切で立地条件が良く、更にディスカウントをしてくれた **HalfMoon Marina** に 3 ヶ月ほど滞在することになりました。

我が艇 **Nauticat 351** はカナダやアメリカ西海岸では大変珍しく、皆とても褒めてくれるので嬉しいです。**Nauticat** が来ていると聞き付けてわざわざ見に来る人もかなりいます。マリーナには多くのヨットが繋留されており、友達もたくさんできました。

ある日、友人の一人である **Patrick** が、夕方から 200 隻のヨットやモーターボートの光のパレードがあるから行かないかと誘うので行ってみたところ、本当にそれぞれが素晴らしくそしてユニークで面白いクリスマスイルミネーション

を飾り付けたヨットが、次から次へと目の前を通り過ぎて、あまりの美しさに感激しました。

また別の日には、**Dennis**(ギタリストで盲目のセイラー)と **Lucinda** からワインバーへ誘わ

れて、彼の演奏を聴きながらワインを楽しみました。そこで出会った彼の友人 Paul（セイラーのバイブル：「Charlie's Chart メキシコ版」の作成に貢献している）から翌日「Californian」（145 フィートの帆船）でセイリングは如何とお誘いの電話があり、喜んで行って見るとそこには「Star of India」や Master & Commander の「Surprise」など素晴らしい帆船時代の船が今もセイリングできる状態で係留されていました。その美しい姿にはただただ見惚れてしまいました。

そして「Californian」に乗艇、帆を揚げるのにはかなり力が必要でしたが、サンディエゴ湾の海面を 9 ノットの風に乗って滑り出すと、もうそれはなんともいえない優雅なセイリングの世界でした。途中からボースン（建一）がラットを持たせてもらい、146 フィートながらタックもスムーズ、昼頃から夕方まで夢のような帆船セイリングを楽しみました。12 月も押し詰まった頃、サンフランシスコから来た赤木夫妻と広大な Safari Park へ行き、すばらしい動物達と遊びました。水牛、カバ、キリンの群れ、チータの夫婦と赤ちゃん、年寄りのメスを先頭に生まれたばかりの赤ちゃんを含む 9 頭の象の群れなど、いくら見ても飽きることがありません。中で私が一番気に入ったのはおしゃれな羽並みのフクロウでした。動物を身近に感じることができるのは本当に仕合せで楽しいことです。

これも 12 月の末でしたが、ボースンと二人でサンディエゴヨットクラブを訪ねました。とても親切に歓迎してくれて、クラブ内をていねいに案内してくれました。アメリカズカップが始めて開催された頃からの写真や記念品が飾られている部屋や、広いテラスに素晴らしいレストラン、暖炉のあるサロンとビーチもあり、一日中ゆっくり楽しめる素敵なヨットクラブです。

大晦日の夜、誘われてミュージシャンの家へ遊びに行きました。総勢 30 名ほどで大ミュージックセッションが始まり、私達以外は皆さんピアノ、パーカッション、フリュート、バイオリン、ギター、マンドリンと楽器を何でもこなし、それぞれが素晴らしい演奏と歌を披露しました。そして、いよいよカウントダウンが始まるとシャンペンを開けて皆で乾杯、Auld Lang Syne を歌い和やかに新年を迎えることができました。思い出に残るサンディエゴの大晦日でした。

年が変わって 1 月 2 日に路面電車でメキシコとの国境まで行き、そこから徒歩で 10 分ぐらいのティファナへ。

サンディエゴとはガラリと雰囲気が変わって、少し埃っぽいカラフルな飾り付けが目立ちます。そして、あちこちで聞こえるマリアッチの陽気な音楽が楽しい雰囲気をかもし出しています。お昼はメキシコ風フォンデュみたいな物を食べましたが、ハラペーニョがめちゃくちゃ辛くて涙と鼻水でしばらくは口も利けないほどでした。でもすごく満足。その後は街中の革命通りにたくさん並んでいるお店をひやかしに行ったところ、当日は日本人の観光客には会わなかったものの、どのお店からも「アメ横ヨリヤスイヨー」と声がかかってとても可笑しかったです。

1 月半ば頃からは、Balboa Park や Old Town の歴史的建物をゆっくり見物したり、マリナーの人たちとコンサートを楽しんだり、セイリングをしたり、絵のうまい Lucinda や Cindy の指導で絵を描いたり、読書、整備、メキシコへの準備などをして過ごしています。ここサンディエゴには蚊も蠅もいません。マリナーでは一度もゴキブリも見えていません。しかしメキシコへ行くとあらゆる虫がいっぱいいると聞いています。蠅や蚊どころかタランチュラやサソリも珍しくないとのことなので、Home Depot（一軒の家を自分で完璧に建てる事のできる材料が全て揃うお店）まで行き、網戸の材料を買ってきて、これでオーニングを作ることにしました。

スペイン語はまだ挨拶程度です。もう少し覚えなければと思うのですが、、、。

近くドイツから妹が遊びに来るので、暫くは内陸旅行をしたりします。

そして 3 月始めにはメキシコのエンセナダに向けて出航します。

次回はメキシコあるいはパナマからご報告させていただきます。

それでは皆様お元気で、応援ありがとうございます。皆様の艇のご安航をお祈りします。

近藤シルヴィア・建一



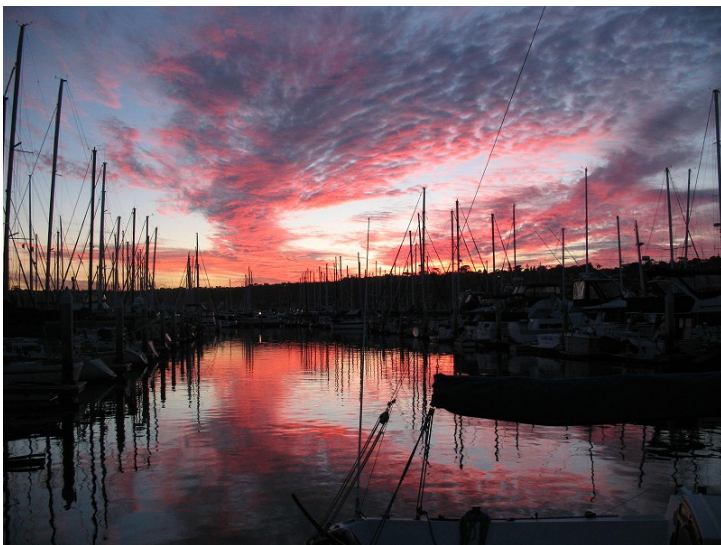
Ann Lucia at Half Moon Marina



Ann Lucia at Half Moon Marina



Ann Lucia, Ken, Sylvia at Half Moon Marina



Ann Lucia から見た夕日 at Half Moon Marina



Ann Lucia で Sailing
Jim と Dennis



Cindy at Half Moon Marina



Patrick



SDYC 暖炉の前で



Tall Ship に揚げたイルミネーション



Topsail Schooner
California



Topsail も展開



Yacht Illumination



ヒールしているカルフォルニアン



ボースンが操船



帰港を知らせる空砲の準備



目の前に虹